

知的財産と社会連携

Intellectual properties and Social contribution

単位数：5単位

○中村 守彦 教授：医学系研究科医科学専攻 地域医学共同研究部門

1. 科目の教育方針

知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにはがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 知的財産および知的財産権の概要を理解する。
- 2) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。
- 4) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。
- 5) 産学連携を社会連携の視点から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。
- 2) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。
- 4) 医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。
- 5) 研究・開発のマネジメントを説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、体験実習における態度、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.
 - 2) 隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.
 - 3) 出川通：最新MOT〈技術経営〉がよーくわかる本、秀和システム、2005.
 - 4) 技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準MOTガイド、日経BP社 2006.
 - 5) 沼上 幹：「わかりやすいマーケティング戦略」、有斐閣アルマ、2008.
- ※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	中村 守彦
2	知的財産概論 1 (基礎編)	中村 守彦
3	知的財産概論 2 (応用編)	中村 守彦
4	知的財産権 1 (創造)	中村 守彦
5	知的財産権 2 (保護)	中村 守彦
6	知的財産権 3 (活用)	中村 守彦
7	知的財産特論 1 (医療分野)	中村 守彦
8	知的財産特論 2 (医工連携)	中村 守彦
9	医・看工農連携による研究事例 1 (総合事例)	中村 守彦
10	医・看工農連携による研究事例 2 (島根大学の事例)	中村 守彦
11	教育研究と社会連携	中村 守彦
12	研究と開発のマネジメント	中村 守彦
13	産学連携による新事業創出事例	中村 守彦
14	看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出	中村 守彦
15		